

森林資源の現況と木質ボード類の需給動向

1. 森林資源の現況

(1) 森林面積と森林蓄積

韓国における2023年の森林面積は6,287千haと総国土面積（10,045千ha）の62.6%を占めている。このような森林率はOECD国家のうちフィンランド（73.7%）、スウェーデン（68.7%）、日本（68.4%）などの次に4位を示している。2023年の総森林蓄積と1ha当たり平均森林蓄積は各々1,107百万 m³、176m³を示し、前年対比に2.0%増加した。1ha当たり平均森林蓄積は1973年に11.3m³を示したことに比べて飛躍的に増加（15.6倍増）してOECD国家の1ha当たり平均蓄積（127.8m³）を超えている。

表-1. 森林面積と森林蓄積の現況（2023年）

森林面積 (ha)	森林蓄積 (百万m ³)	1ha当たり森林蓄積 (m ³)
6,287,325	1,107	176.0

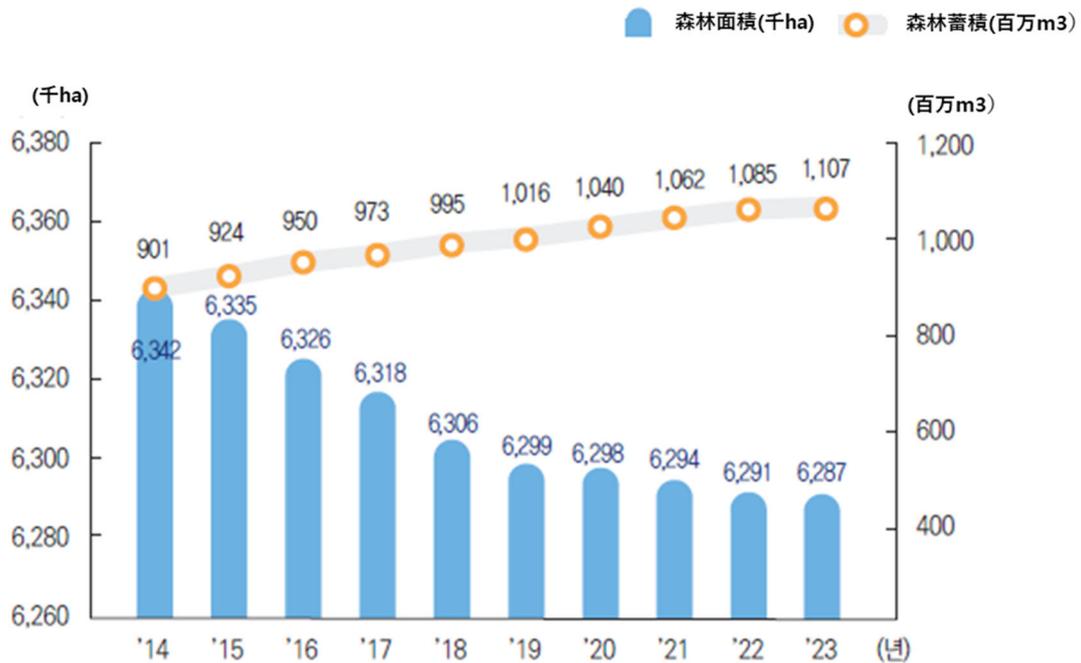


図-1. 森林面積と森林蓄積の推移

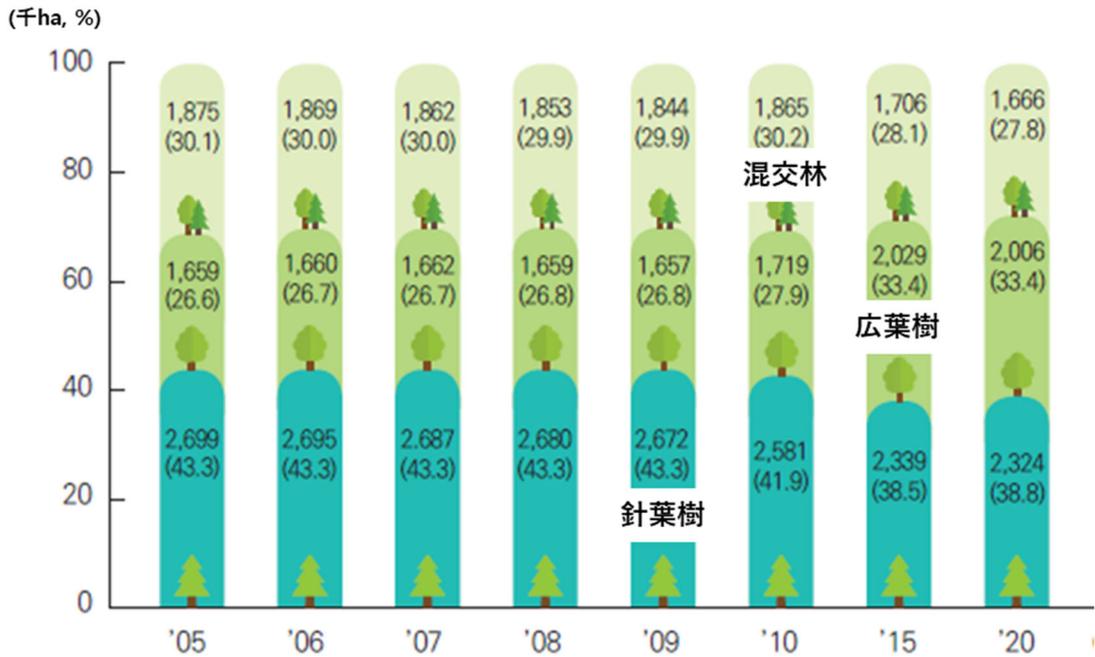


図-2. 林相別の森林面積の変化推移

産業用材として多く利用されている主要針葉樹の森林面積（2020年）を見ると、松（マツ）が1,579千ha（68.1%）と最も多く、次いで国内で建築用材として最も利用されているカラマツが260千ha（11.2%）、リギダマツが234千ha（10.1%）、朝鮮五葉松が151千ha（6.5%）、ヒノキが72千ha（3.1%）など示した。ヒノキは最近韓国南部地方を中心に大規模な造林が行われている。

表-4. 主要針葉樹の森林面積と森林蓄積の現況（2020年）

区分	合計	マツ	朝鮮五葉松	カラマツ	リギダマツ	ヒノキ	その他
森林面積 (ha)	2,319,832	1,579,787	151,946	260,255	234,450	72,592	20,802
森林蓄積 (千m ³)	469,501	328,962	26,911	56,564	47,208	5,897	3,958

(2) 森林資源の造成と生産

主要針葉樹の造林実績を見ると、2023年の総造林面積は13,450haで、そのうちヒノキが4,606ha（34.2%）と最も多く、次いでカラマツが4,554ha（33.9%）、マツが3,504ha（26.1%）など示した。スギは2022年に120ha造林以外には目に見えないわずかな水準である。

表－5. 主な針葉樹の造林実績

(単位：ha)

区分	合計	マツ	朝鮮 五葉松	カラマツ	スギ	ヒノキ	クロマツ	その他
2019	14,542	3,984	288	4,559	-	4,952	197	563
2020	14,620	3,947	240	4,711	-	5,085	199	438
2021	12,625	2,715	188	4,721	-	4,532	146	324
2022	12,072	2,302	187	4,932	120	4,092	81	359
2023	13,450	3,504	222	4,554	-	4,606	82	483

韓国における立木伐採面積を見ると、2023年の総伐採面積は87,873haであり、そのうち山火事や松くい虫などの被害木伐採が29,731ha (33.8%) と最も多く、次いで主伐が17,345ha (19.7%)、樹種更新が5,582ha (6.4%)、間伐が3,403ha (3.9%)などを示した。

表－6. 立木伐採面積

(単位：ha)

区分	合計	主伐	間伐	樹種更新	被害木	その他
2019	100,588	16,660	3,960	8,007	39,363	32,598
2020	127,700	16,414	3,616	8,894	37,904	60,872
2021	106,031	16,691	4,703	7,901	33,917	42,819
2022	115,528	16,837	3,811	6,632	48,371	39,877
2023	87,873	17,345	3,403	5,582	29,731	31,812

2023年の総立木伐採量は4,632千 m^3 を示した。事業種別にみると主伐が2,416千 m^3 (52.2%) と最も多く、次いで間伐が746千 m^3 (16.1%)、樹種更新が573千 m^3 (12.4%)、被害木が560千 m^3 (12.1%)などを示した。

表－7. 立木伐採量

(単位： m^3)

区分	合計	主伐	間伐	樹種更新	被害木	その他
2019	5,184,255	2,428,616	144,495	919,692	728,241	963,211
2020	5,456,659	2,131,842	95,979	780,327	609,647	1,838,864
2021	4,910,804	2,312,264	132,270	727,958	367,206	1,371,105
2022	4,742,065	2,369,335	133,550	646,372	359,452	1,233,356
2023	4,632,035	2,416,027	746,831	573,769	560,053	200,663

2. 木質ボード類の需給動向

(1) 合板

2024年における合板の生産量は国内の建設景気、特に建築着工面積の減少で前年対比に1

6.0%減少し178千m³を示した。用途別の生産量をみると、普通合板の生産量が前年対比に19.1%減少し152千m³、加工合板は同対比に8.3%減少して26千m³を示した。

表-8. 合板の生産量

(単位：千m³)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
普通合板	198	193	209	238	188	152
加工合板	45	40	32	30	24	26
合計	243	233	241	268	212	178

国内の合板生産会社は主に12mm以上のコンクリート枠組み用を生産している。2024年における厚さ別の普通合板の生産量をみると、厚さ12mm以上の普通合板は前年対比に19.4%減少し125千m³を示し、総合板生産量の81.7%のシェアを占めている。厚さ6.0～11.9mmの普通合板は同対比に12.9%減少し27千m³、厚さ3.6～5.9mmの普通合板は前年対比に50%減少し1千m³を示した。

表-9. 厚さ別の普通合板の生産量

(単位：千m³)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
12mm以上	153	165	174	176	155	125
6.0～11.9mm	41	25	33	53	31	27
3.6～5.9mm	3	3	2	2	2	1
3.5mm以下	-	-	10	-	-	-
合計	198	193	209	231	188	153

合板の輸入量（2024年）は国内における合板生産会社の減少と建設景気の沈滞が続いており、前年対比から1.9%増加の1,357千m³に留まった。合板の主な輸入国はベトナム、インドネシア、中国などであり、ベトナムからの輸入量は前年対比に4.9%減少し600千m³を示した。インドネシアからの輸入量は同対比に8.7%増加した427千m³、中国からの輸入量も同対比に5.2%増加し141千m³を示した。

単位：千³m

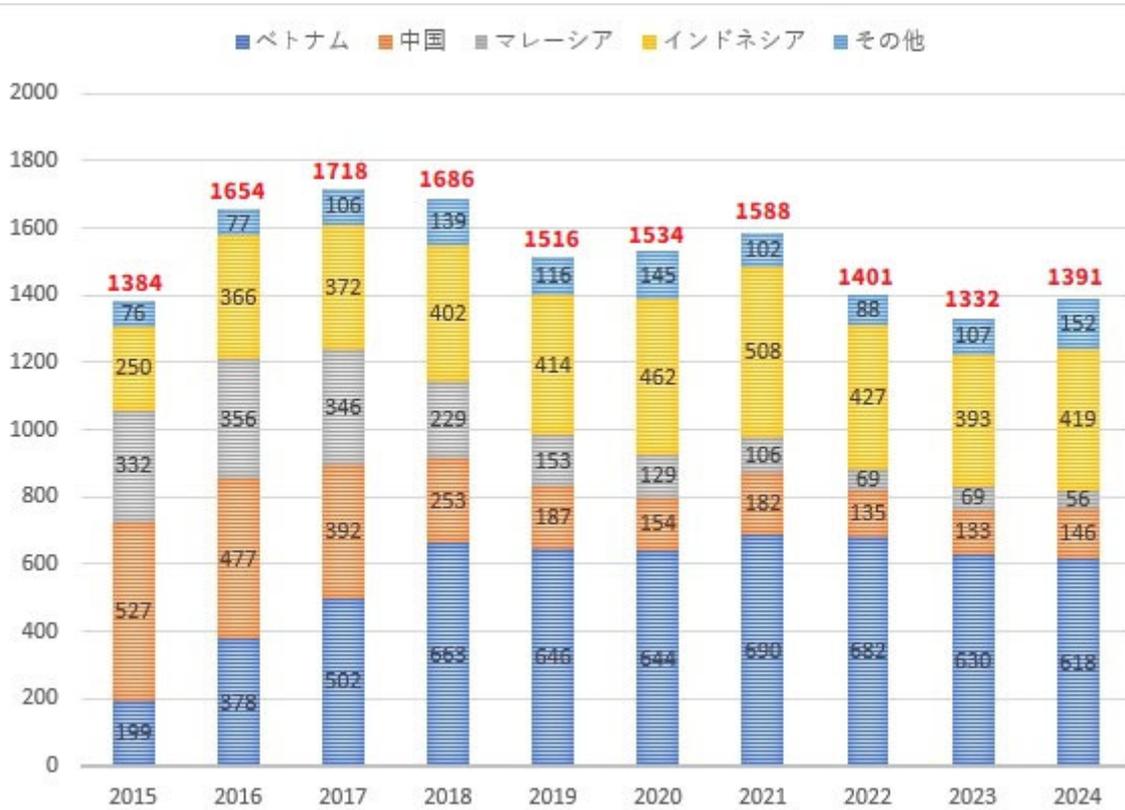


図-3. 国別の合板の輸入量

(2) パーティクルボード

2024年におけるパーティクルボードの生産量は国内のパーティクルボード生産会社の廃業に伴う生産量の減少で前年対比に10.1%減少し537千³mを示した。2024年の生産量は1995年以来に最も低い水準である。2025年現在パーティクルボードの生産会社は2カ所が稼働している。

表-10. パーティクルボードの生産量 (単位：千³m)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
生産量	807	857	858	785	597	537

一方、2024年における厚さ別のパーティクルボードの生産量をみると、15mm～19.9mm以下の製品は前年対比に9.2%減少し494千³mを示した。20mm以上は同対比に29.4%減少し24千³m、10.1mm～14.9mm以下の製品は同対比に5.0%減少し19千³mを記録した。2023年からMDFの価格上昇で薄いパーティクルボードの需要が増加している。2024年にも10.1mm～14.9mm以下の製

品は前年対比に少し減少しているが依然として20千 m^3 前後の水準を維持している。

表-11. 厚さ別のパーティクルボードの生産量 (単位：千 m^3)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
20mm以上	46	45	41	42	34	24
15～19.9mm	759	810	812	738	544	494
10.1～14.9mm	2	2	4	5	20	19
合計	807	857	857	785	597	537

2024年のパーティクルボードの輸入量は国内の生産会社の減少によって前年対比に8.8%増加し1,344千 m^3 を示した。パーティクルボードの主な輸入国はタイであり、2024年の輸入量は前年対比に7.3%減少した1,171千 m^3 を示した。タイからの輸入量は総輸入量の86.7%のシェアを占めている。

単位：千 m^3

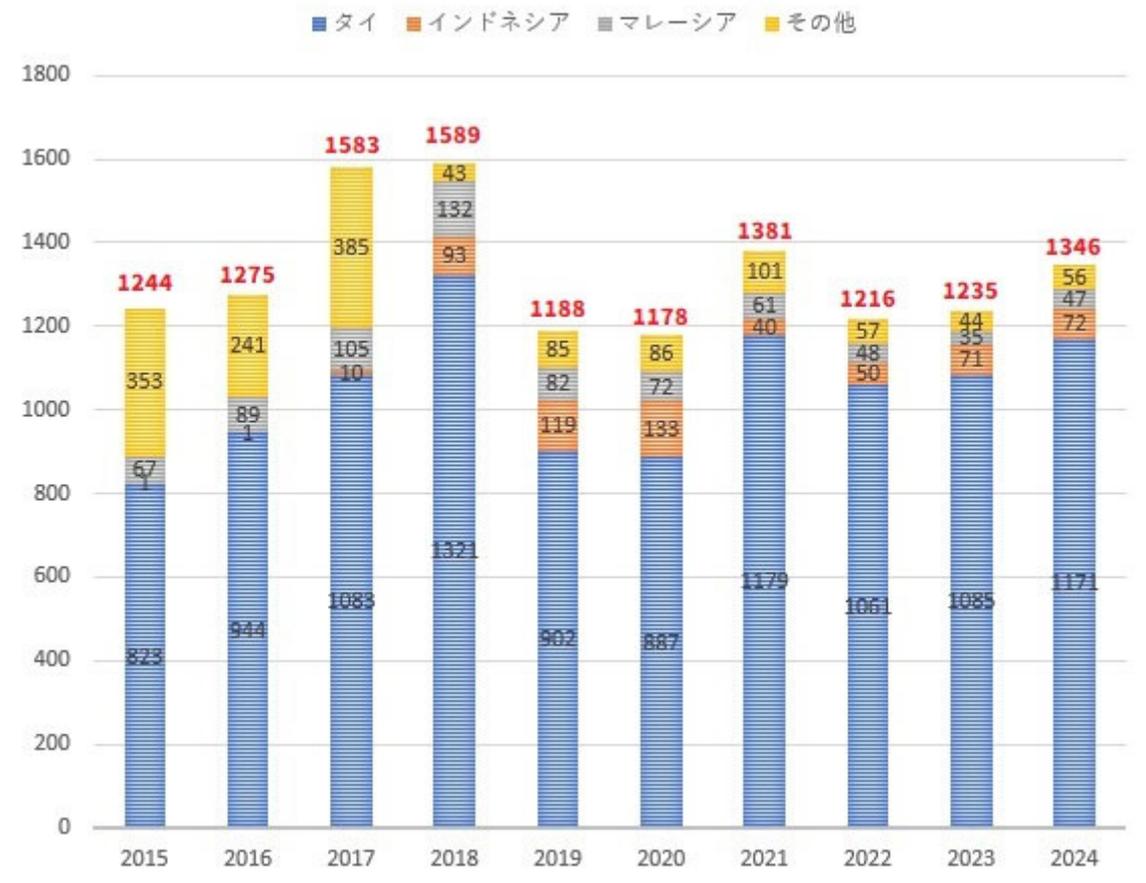


図-4. 国別のパーティクルボードの輸入量

(3) MDF

2024年におけるMDFの生産量は建設景気の沈滞による家具用材及びインテリア需要の減少の影響で前年対比に5.1%減少し1,251千 m^3 を示した。MDFの生産量は2021年に発生したコロナウイルスによる在宅勤務の影響で家具用材の需要が増加した以降から持続的に減少している。

表-12. MDFの生産量

(単位：千 m^3)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
生産量	1,529	1,400	1,612	1,470	1,318	1,251

一方、厚さ別のMDFの生産量をみると、15mm～20mm以下の製品は前年対比に1.2%減少し732千 m^3 を示した。15mm～20mm以下の製品は総生産量の58.5%を占めている。9mm～15mm以下の製品は同対比に3.7%減少し365千 m^3 を記録した。

表-13. 厚さ別のMDFの生産量

(単位：千 m^3)

区分	2019	2020	2021	2022	2023	2024
20mm以上	70	61	61	49	42	30
15～19.9mm	778	716	862	813	741	732
9～14.9mm	426	403	471	412	379	365
4.6～8.9mm	79	41	44	53	43	45
4.5mm以下	176	179	175	143	113	79
合計	1,529	1,400	1,613	1,470	1,318	1,251

2024年のMDFの輸入量は282千 m^3 と前年対比に23.7%増加した。タイからの輸入量は前年対比に18.2%増加し、中国からの輸入量も同対比に100.0%増加した。MDFの輸入増加は国内のMDF生産会社の弊社と原材料の価格上昇に伴う製品価格の上昇が主な原因である。

単位：千m³

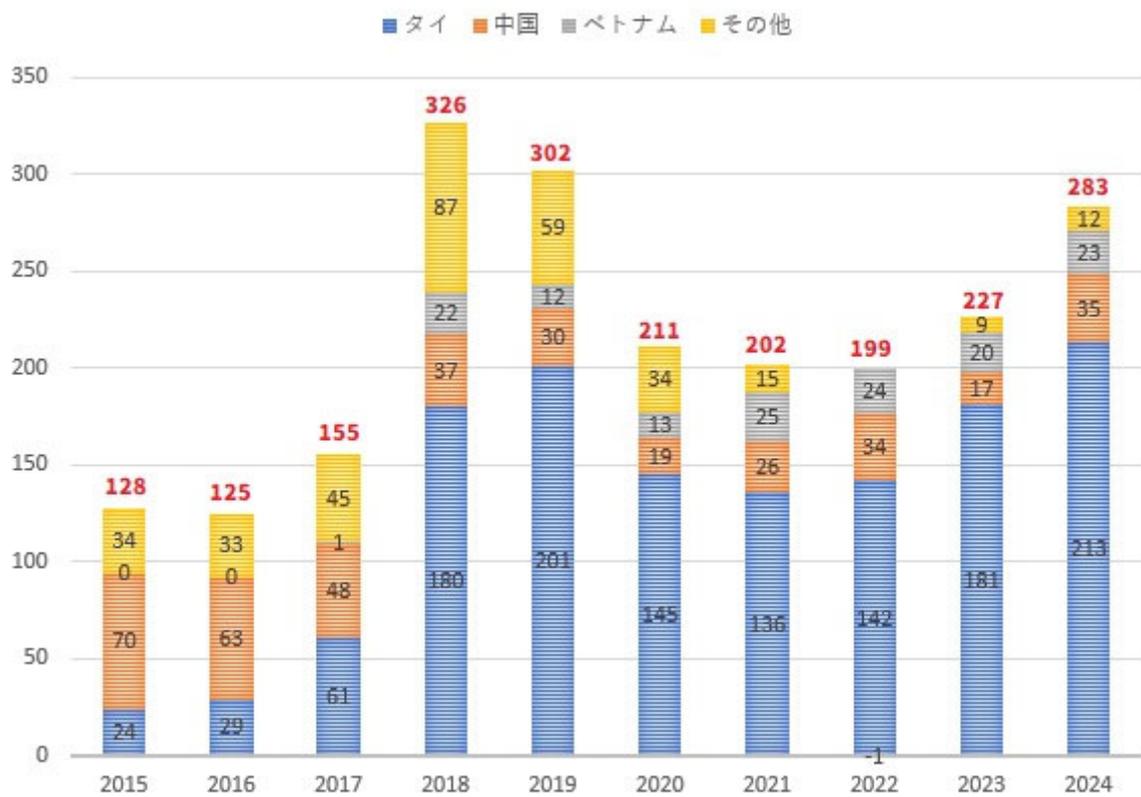


図-5. 国別のMD Fの輸入量

参考資料：

1. 森林資源の現況は「韓国山林庁. 2024山林林業統計年報」による
2. 木質ボード類の需給動向は「国立山林科学院. 2025森林・林業展望」による